

大飯原発再稼働

円は大飯原発から半径160キロ圏内
※チェルノブイリ原発事故の時に旧ソ連が出した避難基準



力を合わせて
ストリップを

日本共産党

原発から愛知に風船最多

政府が狙う大飯原発の再稼働。国際環境NGOグリーンピース・ジャパンのプレスリリースによると、原発事故の放射性物質の拡散範囲を調べるために3月29日、30日に大飯原発周辺から飛ばした紙風船1500個のうち、落下地点は愛知県内が最多という結果がでました。もし、原発事故が起きれば愛知県も深刻な事態になる可能性があります。

新基準一求められるのは「計画」だけ

政府は、原発再稼働の前提となる新たな「安全」基準を決定。新基準は3つありますが、大飯原発の場合うち2つ①津波や地震による全電源消失をふせぐ対策、②福島原発事故のような地震や津波が起きても冷却を続け燃料損傷が起きないかどうかの確認—はすでに実施済み。3つ目の基準は、「さらなる安全性・信頼性向上のための対策の実施計画」—30項目の安全対策ですが、基準が求めているのは計画であって、実現ではありません。まさに、再稼働ありきの新基準となっています。



原発撤退の政治決断こそ

大飯原発の再稼働に反対の人は62%(毎日新聞4月2日付)にのぼっています。政府は、国民の声に応じて、原発撤退を決断し、自然エネルギーへの転換に足を踏み出すべきです。

●真実がわかる 明日が見える—「しんぶん赤旗」をぜひお読みください。(日刊紙3400円/日曜版800円)

国政事務所ニュース

2012年
4月号外

発行：日本共産党国会議員団愛知事務所
〒460-0007 名古屋市中区新栄3-12-27 電話052-261-3461
日本共産党の見解を紹介します。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。